

## 斑点米カメムシ類の加害類型について

### 【斑点米について】

斑点米カメムシ類（以下、カメムシという。）は口吻を籾の上、または籾の合わせ目などの隙間から差し込み穂を吸汁することで収量や品質に影響を与えます。

吸汁するカメムシの種類によって加害部位や被害症状が異なるため、斑点米の被害状況とすくい取り調査を併せることで地域での優占種を推測することが可能です。

### 【カスミカメムシ類による被害症状】

アカヒゲホソミドリカスミカメやアカスジカスミカメといったカスミカメムシ類に吸汁されると、その部位に雑菌等が繁殖し、黒い斑点を形成します（写真1）。

カスミカメムシ類は口吻が弱いため、玄米の頂部や鉤合部への加害が多くなります。また、割れ籾が多いと被害が多くなりやすいのが特徴です。

### 【大型カメムシ類による被害症状】

ホソハリカメムシやクモヘリカメムシといった大型カメムシ類に吸汁されると、その部位が白いコルク状に変質し、外縁部は黒色～褐色に変色します。加害部位の中心部には、吸汁痕が肉眼で確認できる場合もあります（写真2）。

ホソハリカメムシは玄米全体を無差別に加害しますが、クモヘリカメムシは頂部や鉤合部を主に加害します。また、2023（令和5）年8月にいわき市で発生が確認されたイネカメムシは基部を特異的に加害することが知られています（写真3）。



写真1 カスミカメムシ類による鉤合部の被害症状



写真2 大型カメムシ類による鉤合部の被害症状



写真3 大型カメムシ類による基部の被害症状